「文子先輩」最後の1日 忘れぬよう漫画に

子どもたちが学ぶ戦後80年 1 姉妹の探求

山澤遥乃さんが川田文子さんの最後の1日を描いた漫画。モノトーンだが、遺体の唇に紅がささされた場面だけ赤色を使った

2人の作品をまとめた本「川田文子さんのこと」を手にする遥乃さん（左）と綾乃さん＝7月16日、東京都東久留米市

川田文子さん＝めいの早川喜久子さん提供

空襲で断たれた命、ひかれた紅…校内の碑から日記・証言たどり

「川田文子さんのこと」という桃色の表紙の小さな本がある。自由学園（東京都東久留米市）に通う山澤遥乃さんと綾乃さんの双子の姉妹が、19歳だった3年前にまとめた。

主人公の川田文子さんは、自由学園高等科3年だった1944年、学徒動員中に米軍機の空襲を受けて19歳で亡くなった。

姉妹が文子さんのことを知ったのは2018年。自由学園中等科（中学）3年生として授業で学園内の慰霊碑を見て回ったとき、碑に文子さんの名を見つけた。

しばらくして自宅の大家が文子さんのめいであることが、偶然わかった。以来、姉妹は毎年、文子さんの命日に大家の代わりに花を届けた。

ある日、絵の得意な遥乃さんが、従軍した女性の証言を掘り起こした作品に登場する独ソ戦の従軍看護師をイラストに描いたのを見て、母は言った。「文子さんのことも描いてみたらどう？」

こうして、姉妹は、高等科（高校）3年の「探求」の授業のテーマに、自分たちと同年代で亡くなった先輩の「文子さん」を選んだ。

学園や地元の図書館で資料を集め、わかったことは――。文子さんは1944年12月3日、中島飛行機武蔵製作所で勤労動員中、空襲警報のなか、同級生よりわずかに早く防空壕に入った。すぐそばに爆弾が落ちて、圧死のような状態で命を落としていた。

綾乃さんは、文子さんが日々の記録をつけていた「生活帳」というノートがあると知った。所蔵されている京都市の立命館大学国際平和ミュージアムの図録をスマートフォンで撮影し、拡大して書き写した。

「夕食後ピアノ」「むしパン作り」「ピンポン大会」……。

夜勤の仕事について、「明日からもうすこし（作業の）早さを気にしてしよう」という記述もあった。だが、日を追うにつれ、戦況は厳しくなる。献立は初めは「さば煮付け」や「さくらご飯」だったが、品数が減っていき、空襲警報や警戒警報の記述が増えた。

そして亡くなった12月3日は空欄に。5日は前もって「公休」と書かれていた。実家の両親が11月末の空襲で助かった文子さんのために赤飯で祝う計画をしていたという。

綾乃さんは、「最初は10代の鮮やかな日常がよみがえり、写していて楽しかったが、楽しさが悲しみに一気に変わった」と振り返る。

遥乃さんは、文子さんの同級生の証言をもとに、「先輩」の最後の1日を漫画にした。掘り出された文子さんの唇に、教師が口紅をさした場面は、他のページはモノクロだが、唇だけ赤色にした。

表紙に描いた文子さんは、家族写真で写っていたワンピース姿だ。遥乃さんは「私たちが授業で作ったのと同じデザイン。かわいい姿にしたかった」と言う。最後のページに、こう書いた。

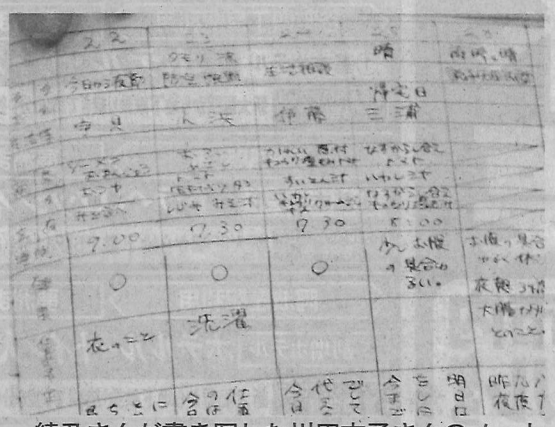
「決して忘れてはならない」

姉妹は2022年3月、文子さんについて学園内で発表したところ、学園の資料室主任研究員だった村上民さんらの発案で、本にまとめることになった。

◆戦後80年を迎え、体験者がいなくなる中、教育現場では戦時の記録を見つめたり、現在の戦争を題材に社会のあり方を考える授業をしたり、様々な学びが広がっています。戦争を考える子どもたちの姿を見つめました。

■中島飛行機武蔵製作所

東洋一といわれた航空機エンジン工場。日中戦争開始翌年の1938年に北多摩郡武蔵野町西窪（現・武蔵野市緑町）に開設された。陸軍零式戦闘機（通称「零戦（ぜろせん）」）や一式戦闘機「隼（はやぶさ）」のエンジンも製造された。1944～45年にかけて空襲を受け、44年11月24日は工場内だけでも57人が犠牲に。12月3日には60人が死亡。川田文子さんもそのひとりだった。



綾乃さんが書き写した川田文子さんのノート

本が完成すると、演劇部員に協力してもらい、朗読会を開いた。「川田さんがふっと、出てきて『どうしたの』と言いそう」。後輩が泣きながら話したのを見て、姉妹は「文子さんとつながった」と感じた。「受け止めてほしかったのは、まずは知ること、忘れないこと。そうしないと悲しいことがまた起こる」

本を通じた学びは、他校にも広がった。法政大学中学高等学校で社会科を担当する牛田守彦教諭は、中学2年生の授業で取り上げた。生徒からは「戦争で身近な人がなくなると考えたら、リアルで悲しく感じた」と感想が寄せられたという。

姉妹の「探求」は続く。立命館大学国際平和ミュージアムに所蔵されている文子さんのノートと亡くなったときに身につけていた防空頭巾を手作りで複製。母校の教育に生かしてほしいと考えた。

いま、遥乃さんは、祖父の戦争体験の漫画を描いている。綾乃さんは「文子さんのことをさらに調べたい」と話す。2人は来春、学園の最高学部（大学）を卒業する。

「川田文子さんのこと」（自由学園出版局）は67ページ。1100円（税込み）。購入方法などは同学園サイト（https://www.jiyu.ac.jp/blog/info/82483）。

（編集委員・氏岡真弓）